

## 学校紹介

シリーズ⑧



谷村第二小学校は、都留市法能九二三番地（海拔四七〇m）に所在します。

児童総数は一九五名と小じんまりしていますが、その分子供たちの仲間意識は強く、人情味が豊かです。

最近は大きな工場などが進出して、父兄の就業にも変化が生じてきていますが、兼業農家は依然としてかなりなウエイトを占めています。

このため学校では、働くことの尊さや収穫の喜びを、身をもって体験させることから地域の特性を子供たちに理解させるため、学級農園を積極的に活用しています。

また、この学校では数年前に鉛筆削り器を全廃し、児童すべてが個人用ナイフを使用

▼手づくりたこでたこ、上げ大会



しています。

道具の正しい使い方を覚えることから、遊びの工夫やものとへの積極性が培かわれると考えたからだそうです。

最初は、ワリバシの削り方から始まり、今年は「手づくりだこ」の竹ひごまで器用に削りあげるまでになりました。

### 体力づくりに役立つ

### 日課としてのマラソン

谷村第二小学校のユニークな一面に、全校毎日マラソンがあります。

運動を生活のなかに取り入

## 生きることの学び舎

谷村第二小学校長 河西虎信

学校の沿革史によると明治六年十一月、法能学校という名称で宮原地内の専徳寺を仮校舎として開校され、引き続いて与繩、朝日、熊井戸、小野、菅野、道志、秋山地区の学校も本校の分校として開校されたことになっております。

そして三吉村役場の一角を校舎としたりしながら、現在、活動するたのしさのなかで自然に体力をつけることをねらいとして始められたこのマラソンは、すっかり子供たちの日常生活の一部として定着しています。

このマラソンは単に走るだけでなく、児童の脈はく、肺活量などを測定し、このデータを全国平均と比較検討している点に特徴があります。

校内研究資料によると、肺活量はすべての学年が全国平均を大巾に上回っています。新入学児童も半年ぐらいたつと、肺活量はきわだつて増加することから、このマラソンが体力づくりに大いに役立っていることがうかがわれます。



先生もいっしょに  
全校毎日マラソン

地に校舎が新築されたのは、昭和二十九年でした。

このように本校の歴史は一〇年になろうとしており、郡内地区では最古の部類に属します。

しかも発足当時のことを考えると、教育の中心地として先人の活躍ぶりが偲ばれ、私達の谷村第二小学校をとりま

く郷土（三吉地区）には、すばらしい教育への歴史と学校を軸とした愛郷の精神があることを知る事ができます。時代が変わり、ともすれば忘れられようとする先人の足跡を私達は見逃がすことのないよう児童に受け継がせると同時に「生きることのできる」人づくりに徹することが重要なつとめであると信じます。

ひと口に「人づくり」と言ってもそれは至難なことですが、先人、先輩が築きあげたものを大切に守りながら、次のような「人づくり」に努力しております。

- 人としての生き方を知り、自他を大切にすることの育成
  - 豊かな感情や表現力を持ち、楽しい生活をつくれる子どもの育成
  - わかる子どもの育成
  - 働くことの意味や喜びがわかり、自らつくりだすことのできる子どもの育成
  - たくましい体力、気力を持ち、実践力のある子どもの育成
- これらの目標に向かって十一名の職員が丸とって取り組んでおり、その成果も着実にあがりつつあると確信しています。